

【活動の主題】 心を育む芸術鑑賞会 玉小人権集会

【学校名】

東近江市立玉緒小学校

1 本校の概要

本校は、都市部からも離れていて、演劇や舞台等の優れた文化に触れる機会が少ないと考える。その上、動画や音楽等の情報をすぐに得られる時代になったが、自分の興味のあるものにしか触れていないと感じる。また本校では、外国にルーツを持つ児童（家庭）が多く、日本の文化に触れる機会も少ない。そこで、学校行事として演劇や舞台等の優れた文化に触れることを定期的に設定することは、子ども達の豊かな創造性や感性、思考力を育む上で重要であると考えます。

2 取り組んだ内容

（1）心を育む芸術鑑賞会

本校では芸術鑑賞会を二回実施した。一回目は大道芸を実施し、全校児童に加えて、日頃より学校活動を支えていただいている地域の方々や、近隣幼稚園の園児も参加した。二回目は全校児童を対象に和太鼓の演奏を鑑賞した。両回とも、演目の鑑賞だけでなく、出演者の指導のもと、児童が実際に参加・体験できる時間を設けるなど、鑑賞と体験を組み合わせた内容で実施した。

（2）玉小人権集会

本校では人権集会を実施し、視覚障害のある声楽家を講師としてお招きした。集会では、視覚障害についての基本的なお話や、日常生活をどのように工夫して送っているのかについて教えていただいた。また、声楽の演奏を披露していただき、最後には全校児童が一緒に歌う時間を設けた。講話と音楽を組み合わせた内容で、人権について考える機会として実施した。

3 活動の成果

今回の芸術鑑賞会と人権集会を通して、児童にとって貴重な学びの機会となった。芸術鑑賞では、大道芸や和太鼓の実演を鑑賞するだけでなく、児童自身が体験できる時間も設けていただいたことで、作品や演技の迫力を身近に感じ、感性や表現への関心を高めることができた。また、一回目の大道芸には地域の方々や幼稚園児も参加し、世代を超えた交流の場としても意義深いものとなった。人権集会では、視覚障害のある声楽家の方のお話を通して、児童が障害について理解を深める機会を得た。講話に加え、演奏や全校での合唱を取り入れたことで、児童の関心を引きつけながら主体的に学ぶ場となった。

一方で、課題としては、両行事とも時間の制約から体験や質問の人数や時間が限られ、全員が十分に参加できなかった点が挙げられる。また、人権集会については、全体の間では視覚障害について学んだ内容を日常生活でどのように生かすかの振り返りや活動に十分につなげることができなかった。今後は事後学習や教室でのまとめを組み合わせることが望まれる。今後も、児童が実際に体験し、考える時間を確保する工夫を継続することで、より深い学びにつなげていきたいと考えている。

